

テーマ：内陸部における海洋教育のあり方

【ねらい・概要】

四方を海に囲まれた日本の文化や民族のほとんどは、海との関わりに源流があり、私たちの生活は、海の恵みに支えられている。海の影響を受けた地形、風土の中に生き、生まれ育った洋野町の歴史や文化に「海に親しむ」という観点からせまり、故郷である地域に喜びと誇りを持ち、たくましく生き抜くことができる生徒を育成する。

洋野町とはいえ、山間部に位置する大野地区で育った生徒たちにとっては海は決して親しみやすく近い存在とはいええない。しかし、太古において三陸の海底であった本地区は、海成段丘という地形を持ち、やませの影響を受けるなど、海との関わりは深い。そこから切り込んで、学年に応じた取り組みを実践しながら「海と共に生きる」ことの意味を考えさせる。

【実践計画】

大テーマ：海に親しもう			
	1 学年	2 学年	3 学年
テ ー マ	地域の産業を知る	働くことを通して職業を知る	人との関わりを通して生き方を考える
概 要	<p>【農業体験学習】 海成段丘を活用した産業について体験を通して学習し、課題に対する予想を検証しまとめる。</p> <p>【震災学習列車・学ぶ防災】 実際に被災地に赴き、起こった出来事を体感し防災意識を高める。</p> <p>【宿泊研修】 沿岸ならではの産業を見聞き体験しながら、海に触れ海を知る。</p>	<p>【職場体験学習】 水産加工工場の見学や漁業に関する体験を通して、先人が海と共に歩んできた意味を考える。</p> <p>【北いわて・学びのプログラム】 種市防波堤と三陸津波の碑を見学、ウニ栽培漁業センターの取組を知り、持続可能な海洋利用について考える。</p>	<p>【先人から学ぶ】 海に関わる人からの講話を聞き、自分の将来や地域貢献について考える。</p> <p>【海岸清掃】 海の恩恵について学んだことをもとに、海を守るためにできることを考える。</p> <p>【修学旅行】 施設を利用した防災体験学習を通して、防災の意識を高める。</p>
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・体験を通して自ら課題を解決する意欲を持って活動できたか。 ・防災への意識を高め、地域防災へと意識を広められたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して、海を知り、海に親しむことができたか。 ・活動を通して、復興や持続可能な海洋利用を意識できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を愛し、地域に貢献しようとする態度を育てることができたか。 ・活動を通して、復興・発展を支えようとする意識を高めることができたか。

【今年度の実践】

① 計画からの変更点

2学年の取組である【北いわて・学びのプログラム】を3学年で実施した。海岸清掃の取組と共に沿岸施設等の見学をすることとしたため。

② 実践の成果

< 1 学年 >

宮古・田老での宿泊研修をメインにし、学ぶ防災の受講・地引き網体験や漁港・市場の見学を実施した。初めて聞くこと、目にすることを通して、海に親しむ心を育むと同時に自然の脅威を目の当たりにすることで、防災への意識付けとなった。

学習したことを壁新聞にまとめ、文化祭で発表することで成果を広く外部へ発信することができた。

< 2 学年 >

久慈地区の職場体験学習の中で、久慈漁協の協力の下、魚の水揚げや海産物加工を見学したり海岸で営む商店で職業体験したりすることで海と共に生きる人々とふれ合い、海との共生の大切さを学ぶことができた。

学習したことを壁新聞にまとめ、文化祭で発表することで成果を広く外部へ発信することができた。

< 3 学年 >

修学旅行の機会を活用し、「そなエリア」を訪問して災害について身をもって体験し、防災に対する意識を高めることができた。また、ウニ栽培センターで講話を聞いて持続可能な海洋利用について見聞を広げた。海岸清掃では、海浜公園を清掃しながら磯を観察して海と親しみ、海を守る姿勢を育てることができた。

学習したことを壁新聞にまとめ、文化祭で発表することで成果を広く外部へ発信することができた。

③ 来年度への課題

- ・従来の「総合的な学習の時間」の取組との兼ね合いを考慮しながら活動内容を考えること。
- ・各学年とも、活動時間・場所の確保。
- ・学習内容を発展させる手段の模索。

【主な連携機関】

- ・三陸鉄道（震災学習列車乗車・講話）
- ・宮古観光文化交流協会（田老「まなぶ防災」見学・講話）
- ・宮古市漁協（市場見学）
- ・久慈市漁協（市場見学・体験）
- ・洋野町役場（種市ウニ栽培漁業センター見学・講話）
- ・東京臨海広域防災公園（「そなエリア東京」見学・体験）

成果報告書 2

<海洋教育のストーリーマップ>

○実践のねらい

- ・従来の取り組みである防災学習・復興教育に海洋教育のねらいをプラスして、海に親しみ、海を知る機会とする。
- ・海洋教育を通して改めて郷土を見直し、良さを発見して、復興・発展を支える人材を育成する。

○期 間

4月～11月（総合的な学習の時間を中心にすすめる。）

1学年：50時間 2学年：70時間 3学年：70時間

○関連教科

社会・理科

(1学年)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
調査的な活動		<p>①防災学習～海を知る～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興教育副読本「いきる かかわる そなえる」を活用し、東日本大震災後の生活を振り返る。 ・被災した街の人がどのようにして復興の道を歩んでいるか、関心を持つ。 					<p>①郷土と海の関係～海を利用する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住む地域と海との関係について課題を持ち、解決のために調査する。 ・特色ある地形に適した地場産業を調べる。 	
探求的な活動		<p>②体験活動～海を学ぶ～</p> <p>防災学習：海に触れる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災学習列車に乗り、被害の状況を振り返る。 ・「学ぶ防災」を受講し、当時の様子と復興にむけての行程を学ぶ。 ・地引き網漁を体験したり、市場を見学したりして、海に関わる人々の生活を共感的にとらえる。 					<p>②農業体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海成段丘を活用した産業を体験し、海と郷土との関係を知る。 ・郷土の産業は、独特な地形により成り立っていることを知る。 	
表現活動			<p>③壁新聞にまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが見聞きしたこと、体験から学んだことをグループごとにまとめる。 ・壁新聞を作成し、互いの学びを交流しあう。 				<p>③発信～海に親しむ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の脅威と恵みを体感し、海と共生することの意味を考えて、学習したことや実践をまとめる。 ・洋野町海洋教育地域カンファレンスで発表する(2月) 	

(2 学年)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
調査的な活動	<p>①防災学習～海を知る～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興教育副読本「いきる かかわる そなえる」を活用し、どのように復興に関わることができるか考える。 							
探求的な活動				<p>②海と人～海を学ぶ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験 ・久慈魚市場を訪問し、近海で採れる魚を知る。 ・水産物の加工を見学し、持続可能な海洋利用について考える。 ・地元の水族館を訪問し、全壊の被害から営業を再開するまでの軌跡を知る。 				
表現活動				<p>③発信～海を利用する～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興を目指しながら海とともに生き、海を利用して暮らしている沿岸の人々の生活から学んだことをまとめる。 ・グループごとに壁新聞を作成し、学びを互いに交流し合う。 				

(3 学年)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
調査的な活動	<p>①防災学習～海を知る～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興教育副読本「いきる かかわる そなえる」を活用し、地域に貢献し、復興を支えようとする意識を高める。 ・修学旅行で「そなエリア東京」を見学し、被災の瞬間を体験的にとらえ、大規模災害への備えを学ぶ。 ・郷土の特産物であるホヤ・ウニについて、生息域や生態・特徴を調べる。 							
探求的な活動				<p>②体験活動～海を守る～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウニ栽培漁業センターを訪問し、洋野の水産業の仕組みや、ウニ養殖の方法を学ぶ。 ・震災の影響と復興の様子を探る。 ・海浜公園の清掃を通して、海洋生物のための環境を守ろうとする。 				
表現活動				<p>③発信～海と共に生きる～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産資源を守るために必要なことを考慮しながら、学んだことを個人新聞にまとめる。 ・グループごとに壁新聞を作成し、文化祭では実践発表をして学びを他に発信する。 				